

建築鋼構造学演習  
Exercises in Steel Structure

教員名	多田元英（ただ もとひで）、桑原進（くわはら すすむ）、向出静司（むかいで せいじ）								
教員連絡先 （研究室所在地・TEL）	吹田キャンパス S 1 棟 7 階 7 2 5 室 電話：06-6879-7653								
E-MAIL アドレス	mukaide@arch.eng.osaka-u.ac.jp								
履修対象	建築工学コース（3年次）								
単位	2	セメスター				6			
受講条件	建築鋼構造第一部、建築鋼構造学第二部を履修していること。構造力学基礎、建築構造力学 A、建築構造力学 B を修得していることが望ましい。								
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築鋼構造学の講義内容について、演習を実際に解くことで理解を深める。								
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H	
		○		○	◎				
授業計画・概要	テーマ		概要					学習・教育目標	
	鋼材の種類と性質 （2回）		一般的な鋼材の種類、断面諸量、鋼材の機械的性質・素材試験方法に関する専門的な知識を身につける（高度2回）。					B D E	
	鋼構造建築の製作施工（6回）		典型的な鋼構造建築に採用される各種構法とその製作施工に関する専門的な知識を身につける（高度6回）。					B E	
	構造設計の流れ（4回）		構造設計の流れ、各種の構造計算法、許容応力度計算法の概要設計時に想定する荷重の算定方法・設計骨組の応力算定・断面検定に必要な断面仮定の方法に関する専門的な知識を身に付ける（高度4回）。					B E	
	圧縮材・曲げ材の許容応力度設計（4回）		許容圧縮応力度・許容曲げ応力度の算定方法に関する基本的な知識、および圧縮材と曲げ材の専門的な設計方法を身につける（高度4回）。					B E	
	接合部の設計（8回）		鋼構造建物で用いられる高力ボルト接合部・溶接接合部の設計方法、柱脚、保有耐力接合に関する専門的な知識を身につける（高度8回）。					B E	
	保有水平耐力の算定（4回）		塑性理論により鋼構造建物の保有水平耐力を算定する方法に関する専門的な知識を身につける（高度4回）。					B D E	
	最新のトピックと総括（2回）		鋼構造建築物に関する最新のトピックに関する専門的な知識を身に付けるとともに、全体の総括をする（高度2回）。					B D E	
教科書	毎回、資料を配付する。								
参考図書・文献等	（社）日本鉄鋼連盟編「わかりやすい鉄骨の構造設計」、技報堂出版 （社）日本鉄鋼連盟編「鋼構造設計演習」、技報堂出版 藤本盛久編著「鉄骨の構造設計」、技報堂出版								
成績評価方法・評価基準	D、Eについては、演習レポートで評価する(70%)。 Bについては、授業中の口頭試問により評価する(30%)。								
オフィスアワー	授業終了後および随時 e-mail にて対応								
コメント									